

Title	21世紀の日本への提言：科学技術振興による閉塞感の打破
Author(s)	中島, 邦雄
Citation	年次学術大会講演要旨集, 13: 169-170
Issue Date	1998-10-24
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5640
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

中島 邦雄 (通商産業省)

1. 日本の経済の現状

(1) 閉塞感の根源

- 不良債権処理問題
- 構造的問題
 - 国際規模での競争と産業の空洞化
 - 中心市街地空洞化と地域経済の停滞
 - 高齢化社会への不安
 - 環境・安全問題
 - エネルギー安定供給への課題
 - 企業の経営資源市場の変化

(2) 経済社会システムの評価

- 世界経済に占める日本の位置
- 産業構造変化への対応
- 効率的・画一的社会運営の功罪
- 改革の推進

2. 科学・技術への期待

(1) 経済社会と技術

- 資本自由化
- 産業公害の激化
- 石油危機
- 脱キャッチアップ
- 長期化する不況

(2) 世界共通の期待

- 経済成長、新規産業創出、雇用の増大
- 生活の質の向上
 - 医療、交通、通信、安全、文化、芸術、スポーツ
- 環境対策、エネルギー対策
- 知的水準の向上 (科学)
- 軍事分野、国威高揚

3. 科学・技術の社会寄与の増大

(1) 科学技術基本計画（平成8年8月閣議決定）の概要

○ 基本的方向

経済フロンティアの拡大
地球規模の諸課題への対応
生活の質の向上
基礎研究の強化

○ 政策目標

研究開発システムの構築・連携強化
研究開発基盤の強化
科学技術に関する教育、啓蒙、国民的合意
政府の研究開発投資の拡充

○ 施策

研究者・研究支援者の養成
研究開発施設・設備等の整備・充実
研究資金の拡充
私立大学の研究充実
民間の研究開発促進、公的研究成果の活用
国際協力の促進
地域社会での科学・技術振興
科学教育の充実・科学技術に対する理解・関心の増進

(2) 改善への一歩（日本型研究システムの長所と短所）

○ 内部評価と外部評価システムの構築

○ 情報公開（透明性）と説明責任

○ 個人と組織の係わり

○ 技術と社会の係わり

自然科学と人文・社会科学との対話

技術と社会システム

○ 新しい生産、流通、使用、廃棄のシステム構築